著者紹介

藤井広重（ふじい　ひろしげ）

1982年　滋賀県生まれ
2013年　ライデン大学ロースクール・グロティウスセンター高等修士課程修了（国際刑事法専攻）
2022年　東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻「人間の安全保障プログラム」博士後期課程修了 博士（国際貢献）
現　在　宇都宮大学大学院地域創生科学研究科/国際学部 准教授/Utsunomiya University Global Justice & Peace Research Institute 所長

主な著作

『現代アフリカの対外政策と国際刑事裁判所――司法介入に対するアフリカのバックラッシュ』晃洋書房，2026年。
『探究の国際学――複合危機から学際的な研究を考える』共編著，ナカニシヤ出版，2024年。
「国際刑事法と難民法をめぐる課題に対する一考察――国際刑事裁判所による証人保護と難民条約除外条項の適用をめぐる分析を通して」『難民研究ジャーナル』第12号，2023年（第9回若手難民研究者奨励賞受賞）。
「国際刑事裁判所をめぐるアフリカ連合の対外政策の変容――アフリカの一体性と司法化の進捗からの考察」『平和研究』第57号，2021年（第16回社会倫理研究奨励賞受賞）。

コラム執筆者紹介（執筆順）

三田真秀（みた　まさよし）　コラム1
赤十字国際委員会（ICRC）ジャカルタ地域代表部 人道問題顧問

阿部　豪（あべ　ごう）　コラム2
外務省・在南アフリカ共和国日本国大使館 1等書記官 兼 防衛駐在官

尾崎さくら（おざき　さくら）　コラム3
アジア・アフリカ法律諮問委員会（AALCO）事務局 事務次長

福原玲於茄（ふくはら　れおな）　コラム4
独立行政法人国際協力機構（JICA）アフリカ部アフリカ第一課

花塚ひとみ（はなつか　ひとみ）　コラム5
宇都宮大学大学院地域創生科学研究科博士前期課程/ユトレヒト大学ロースクール博士前期課程

外山聖子（とやま　せいこ）　コラム6
元外務省・在東ティモール日本国大使館 一等書記官

堀江由美子（ほりえ　ゆみこ），**松山　晶**（まつやま　あき）　コラム7
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー部 部長，社会啓発オフィサー

川﨑弥智都（かわさき　みちと）　コラム8
赤十字国際委員会（ICRC）イエメン・ホデイダ地域事務所代表

榊原彩加（さかきばら　あやか），**鈴木望夢**（すずき　みゆ）
吉田桜華（よしだ　おうか）　コラム9
宇都宮大学 UU-GJP プロジェクトメンバー

薦田淳平（こもだ　じゅんぺい）　コラム10
国際刑事裁判所　法務官補

尾立素子（おだち　もとこ）　コラム11
特定非営利活動法人 ADRA Japan

野口元郎（のぐち　もとお）　コラム12
元国際刑事裁判所被害者信託基金 理事長/元クメール・ルージュ裁判最高審国際判事